

本日の説明内容

- ○広島大学研究設備サポート体制の 整備・推進について
- ○大学連携研究設備ネットワーク (予約システム)について

〇広島大学研究設備サポート体制の 整備・推進について



$\sum \chi$

広島大学の設備整備の現状

- ●現存する設備・機器を集約化して効率的利用を促進しつつ、 新規設備についてもできるだけ対応するという方針。
- ●設備マスタープランWG(H20.4)において 現状分析と今後の円滑な運用と支援の在り方を提案した報告書 のとりまとめ。
- ●平成23年度文部科学省から「設備サポートセンター整備事業」 として特別予算(3カ年,全国6大学)が措置。
- ○研究設備サポート推進会議(研究設備サポート推進会議専門部会)を設置 ○研究設備の共同利用化を促進する。
- ○予約システムの移行を目指すことが、(H23/5/20)研究設備サポート推進会 議で了承。

4



「研究設備サポート推進会議内規(抜粋)

(審議事項)

第3条 推進会議は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 設備整備マスタープランに関すること。
- (2) 研究設備予約システムの整備・運用に関するエレ
- (3) 技術サポートの強化に関すること。
- (4) 研究設備の有効利用の促進に関すること。
- (5) 前各号に係る大学間連携の推進に関すること。 (平成23年4月8日理事(研究担当)決裁) 、

研究設備整備計画基本方針(抜粋)

- ◎対象とする研究設備
- 1) 大学全体として支援すべき研究用設備
- 2) 部局の特殊性から部局管理として支援する 研究用設備
- 3) 既に同種の設備が学内に複数存在し、部局ごとに有効活用すべき研究用設備
- 4) その他 (外部資金等のプロジェクトで稼働中の 研究用設備等)

、大学全体として支援すべき研究用設備とは,

① 複数部局で利用され多数のユーザーが見込まれる 汎用性の高い研究用設備

(主な例) X線回析装置、DNAシーケンサー, 共焦点レーザー顕微鏡, 質量分析器, フローサイトメーター, 電子顕微鏡, 核磁気共鳴装置 主要7機種

② 本学の特徴的な研究を推進するうえで必要となる特殊性の高い研究用設備

(主な例) 物質合成加工装置,物性評価・解析装置,低温実験装置,レーザー分光器,電子スピン共鳴装置,静的・動的加力試験機,大型強度試験機

7

設備整備要求範囲

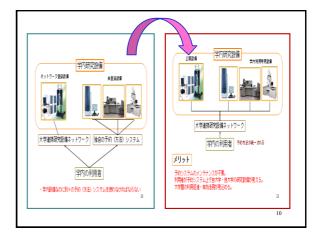
- 〇 概算要求は5000万円以上
- 新規、更新は1000万円~5000万円
- 復活再生、設備移転は1000万円未満でも可

平成24年度 研究設備に関する予算要求計画

- 項目 平成26年度 概算要求設備·平成25年度教育研究設備·復活再生機器 6月 整備計画 照会
- 8月 平成26年度 概算要求設備·平成25年度教育研究設備·復活再生機器 整備計画 要求締切
- 10月 概算要求設備·教育研究設備·復活再生機器(1000万円以上) 整備計画 推薦機器決定 ヒアリング
- 11月 概算要求·教育研究設備·復活再生機器 整備計画確定
- 4月 概算要求·教育研究設備·復活再生機器 整備計画提出

〇大学連携研究設備ネットワーク (予約システム)について





大学連携研究設備ネットワークとは 大学の所有する測定機器を大学間で 相互に利用し、設備の有効活用をはかる。

設備の予約システム

本来、大学間での利用を前提に作られたものだが学内専用で使う設備の扱いも出来る。

機器の予約システムの一元化

11

体制/組織の整備等

全国の機関を12の地域に分割し、各地域の代表機関 (拠点校)を定めている。

各機関には代表委員1名が選出されており、学内の意見の統一を図り、設備・研究室登録の窓口となっている。 全国の各大学の登録機器が利用できる。

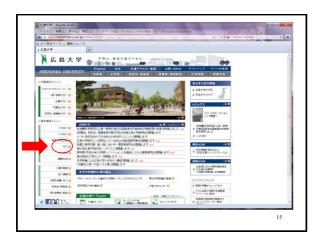
北海道 ◎ 北海道大学 他3機関 中部 ② 名古屋大学 他8機関 北陸 四国 ○ 高知大学 他4機関 九州 東北 ② 東北大学 他6機関 0 金沢大学 他5機関 九州大学 他8機関 ◎ 分子科学研究所 他1機関 ◎ 筑波大学 他4機関 ◎ 京都大学 他5機関 西近畿 ② 大阪大学 他4機関 中国 (◎ 拠点校) 千葉大学 他3機関 西関東・甲斐 東京工業大学 他5機関 __ 広島大学 他4機関 12



公立大・私立大・民間企業等の参加について

	国立大・分子研	公・私立大、民間企業
協議会の構成	0	×
設備登録	0	×
設備利用	0	0

- ・最先端・復活再生の予算措置はない
- ・設備提供大学は私立大等へ設備提供が可能であるがこれは義務ではない。
- ・料金の相殺処理は行わないので直接2機関の間で 料金の収受を行ってもらう。













予約システムの内容

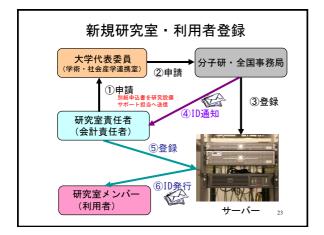
凰ゅ予約システムに備わっている機能

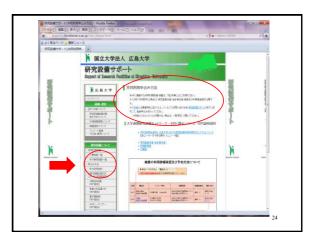


21

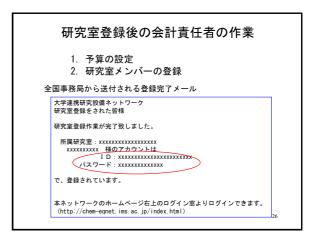
研究室登録の方法 -会計責任者の機能 -











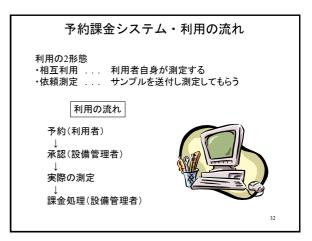
3種類のアカウント権限 設備管理者 予約の管理・課金処理 会計責任者(研究室の教授など) 研究室メンバーの登録・削除、利用可能金額の設定 メンバーの利用状況の確認 メンバーの予約のキャンセル 利用者 設備の利用予約。 予約が入れられるのは利用者アカウントのみ ※ 1つのアカウントに複数の権限をつける事が出来る















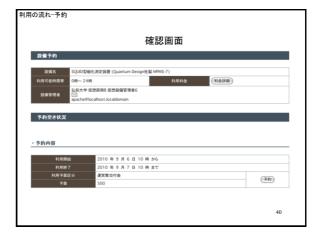






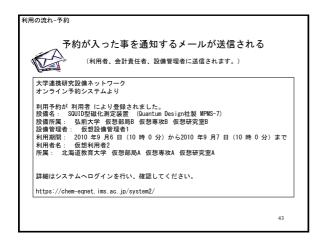










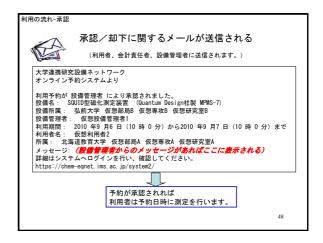
























課金に関するメールが送信される

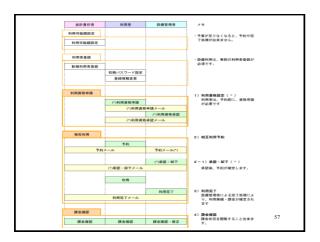
(利用者、会計責任者、設備管理者に送信されます。)

大学連携研究設備ネットワーク
オンライン予約システムより

利用予約が、設備管理者により承認されました。
設備名: SQUID型磁化測定装置 (Quantum Design社製 MPMS-7)
設備所属: 弘前大学 (仮想局局) 仮想専攻B 仮想研究室B
設備管理者1

利用期間: 2010 年9 月6 日 (10 時 0 分) から2010 年9 月7 日 (10 時 0 分) まで
利用邦電: 北海道教育大学 仮想部局A 仮想専攻A 仮想研究室A
利用料金: 1200 円
詳細はシステムヘログインを行い、確認してください。
https://chem-eqnet.ims.ac.jp/system2/







利用料金の処理

- ・利用記録は毎月大学事務に報告される。
- ・四半期毎に料金の相殺処理を行い、相殺通知書を発行。 機関間での料金の収受が行われる。 その時に3ヶ月分の利用記録も同時に送付される。
- ・学内での料金の収受は研究室予算の費用振替によって 四半期毎に処理される。
- ・外部資金を利用の場合は第4四半期は利用することができない場合があるのでご注意ください。

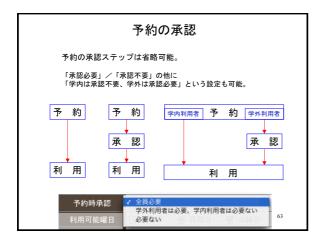
59

予約システムに備わっている 各種機能について











(霞地区) 自然科学研究支援開発センター所属の学内専用機器の予約方法は

- 〇移行準備期間: どちらからでも 予約可能(9月1日~9月30日)
- ○完全移行:大学連携研究設備NW 予約方法のみ(10月1日から)